

大学3年生のフランス語 — 何をどのように教えるか？

山川 清太郎

bpr5000?saturn.dti.ne.jp

大阪経済大学

0. はじめに

大学における第2外国語の需要は年々減少してきている。「第2外国語=2年間必修」という枠組みは崩れ、大学・学部によっては1年だけの必修、または第2外国語の撤廃という状況も多く見られるようになった。このような状況のためか、大学3年次における第2外国語のフランス語教育について論じられる機会が非常に少なくなったのではないだろうか。筆者は大阪経済大学だけでなく、京都外国語大学でも授業を担当している。本稿では、筆者が実際に授業を担当している大学3年次の第2外国語としてのフランス語を紹介することで、どのような授業が運営可能であるのか提案したい。

1. 基本情報

以下は筆者が行った授業の基本情報である。

大学名： 京都外国語大学

科目名： 応用フランス語

開講日： 金曜5限（週1コマ/90 min）

対象者： 大学3年次，フランス語を専攻としない学生（選択授業）

教科書： 『クラルテ<文法編>』（京都外国語大学フランス語研究室，白水社）

履修者は春・秋学期とも女子学生4名であった。学生全員が2年間、第2外国語としてフランス語を履修しており、2年次の習熟度別クラスでは最上位クラスに所属していた。また2年次に全員仏検4級に合格するなど、学生のモチベーションは非常に高かった。

2. 授業構成

授業の内容は《 Conversation 》, 《 Grammaire 》, 《 Compréhension sonore 》の3項目で構成した。

■ Conversation

授業開始時の「ウォーミングアップ」として、5～10分かけて Conversation を実施した。以下はその1例である。

Prof: Qu'est-ce que tu vas faire ce week-end ?

Étudiante: Je vais à Uméda demain.

Prof: Pour faire des courses ?

Étudiante: 「ふえーる・で・くるす」?

Prof: Faire des courses... J'achète des vêtements, des chaussures et une montre...

Étudiante: Oui, j'achète un iPod à Yodobashi-caméra.

学生は2年間フランス語を履修しているが、語彙力や表現力に欠けている点が目立った。そのため、「会話」を通じて、動詞 *faire* を用いた表現 (*faire la cuisine*, *faire des études*, *faire le ménage* etc) などを紹介した。また文法事項の説明にリンクさせることもあった。《 *Combien de cours as-tu aujourd'hui ? - J'en ai trois.* 》などといった中性代名詞を用いた表現などは学生の理解が乏しかったため、教科書を用いて復習を行った。さらに時事問題を話題にすることもあった。アメリカ大統領選でオバマ氏が当選した際には、《 *Qu'est-ce qui s'est passé aux Etats-Unis ?* 》などの質問をすることで話題を膨らませた。

このように授業の初めに「会話」を導入することで、学生とのコミュニケーションを築くだけでなく、学生に今まで学んだフランス語で様々な事柄について表現できることを会得させることができたのではないか。

■ Grammaire

学生は2年間の必修授業でかなり急ぎ足ではあるが、発音から接続法までを学んでいる。しかしながら、学生がこれらの文法事項を身につけているかという別問題である。

春学期には「時制・動詞の総復習」として、時制に関しては直説法の6時制(現在・複合過去, 半過去・大過去, 単純未来・前未来)の考え方, 動詞については *être*, *avoir*, 第1群規則動詞, 第2群規則動詞, その他の不規則動詞の活用を総復習した。秋学期には「学生のリクエストに応じた文法事項の復習」と

して、冠詞、否定の de、補語人称代名詞、比較級・最上級、関係代名詞、代名動詞、条件法、接続法に関して文法事項の説明を行った。

授業ではまず文法事項の説明を行った後、練習問題にて学生の理解度を確認し、内容に応じて個別指導を行った。練習問題に関しては、学生に解答させた内容について○×の正誤チェックのみを行い、学生は誤った問題に関して教科書などを用いて解答を修正した後、教員が再び採点（状況に応じて個別指導）を行うという方法で進めた。学生に間違えた問題を意識させ、「気づき」を経験させることで、文法理解の定着を目指した。

以上のような復習を行うことで、学生の理解できていない文法事項、断片的知識をまとめることができたのではないだろうか。

■ Compréhension sonore

本授業の中心項目として「リスニング」を実施した。これは2年間の必修授業で、学生はフランス語の音声を聴き取ることにあまり慣れていないためである。教材として、春学期には自作の Dialogue (Monologue) を用い、秋学期には仏検対策の過去問題・練習問題として『仏検対策3級問題集』（小倉博史、モリス・ジャケ、舟杉真一編著、白水社）を用い、方法としてディクテを行った。

授業でディクテを行ったのは、学生がリエゾン・アンシェヌマンを含めた「音と綴り字の関係」と音には表れない「性・数の一致」を理解しているかどうか判断できるからである。以下にあげた例)の文章であれば、下線部のつづり字はフランス語の音声に慣れ、かつ文法的知識がないと正しく書けないだろう。

例) Elles sont allées à Paris hier soir.

春学期の教材であるが、フランス人教員（京都外国語大学 Maurice JACQUET, Nadine BATTAGLIA 両氏）と作成したものを用いた。以下はシナリオのタイトルリストとシナリオ例である。

1	Pendant les vacances	6	La route
2	Deux amis	7	La famille
3	Dans le futur	8	A la gare
4	Marie parle de ses goûts	9	A la police
5	La journée de Pierre	10	Mon rêve

8 : A la gare

A : Bonjour Monsieur. Deux aller simples pour Paris, s'il vous plaît.

B : Vous voyagez seule ?

A : Non, avec mon fils.

B : Il a quel âge ?

A : 12 ans.

B : Madame, il y a une réduction pour lui. Pouvez-vous me montrer son passeport ?

A : Oui, Monsieur.

B : Vous partez quand ?

A : A dix heures.

B : Ah...désolé, le train est complet. Mais dans dix minutes, un autre train va partir. Voulez-vous une réservation ?

A : Bien sûr.

B : Alors...deux billets pour Paris, départ à 9h15 (et quart) ... et voilà.

A : Merci.

« Annonce » Le TGV numéro 3621 à destination de Paris va entrer en gare, voie 2.

A : Dépêchons-nous !

10 : Mon rêve

Je m'appelle Théo. J'ai 15 ans. Je suis collégien. Mon professeur m'a dit de penser à mon futur. Dans un an, je serai lycéen. Au lycée, je jouerai au football. Je réussirai au baccalauréat. A l'Université, j'aurai beaucoup d'amis. Si c'est possible, je veux trouver une jolie petite amie. Après mes études, je travaillerai dans un hôpital. Je serai médecin dans le monde entier. Quand j'aurai 28 ans, j'irai travailler en Afrique. J'achèterai une maison au bord de la mer. J'aurai deux fils et une fille. J'y séjournerai pendant 30 ans. Je rentrerai en France. Je passerai ma vie à la campagne avec ma femme... Je pense que c'est une belle vie. Mais mon professeur m'a dit : « Alors...tu comprends ce que tu dois faire maintenant ? »

授業の進め方として、初めにテキスト全体を 3 回流し、学生に内容の大意、聴き取れた文章、単語について尋ねた。その後、1 文ずつ聞かせ、学生にディクテさせた。学生が答えられなかった際には、単語の頭文字、リエゾン、アンシェヌマンといったヒントを与えることで学生の理解を促した。

このリスニングの授業を通して、学生は今まで意識しなかったフランス語の「音」と「文字」のつながりが見えてきたのではないだろうか。また聴解の運用能力の向上だけでなく、文法・語彙・構文の習得にも役に立ったのではない

か.

3 授業効果について

大学で実施したアンケートと学生から直接聴取した内容から授業効果について触れておきたい。この授業での最大の収穫は、履修者 4 名が全員秋実施の仏検 3 級に合格したことであろう。学生全員がこの授業を履修しなければ仏検合格できなかったと述べてくれたのは教員として非常に喜ばしいことである。また受講者の 1 名は、3 年次でフランス語の履修を辞めようと思ったが、フランス語の勉強を続けたいと思い、秋学期終了後の春季休暇中に Tours での語学研修に参加するなど、フランス語に対するモチベーションが高まったように感じた。また全員 4 年次もフランス語の授業を履修したいと答えたが、4 年次配当の第 2 外国語の授業がないため、学生にはフランス語学科の授業を履修することを勧めた。

4 おわりに

大学 3 年次の第 2 外国語としてのフランス語から想像するのはどのようなレベルであろうか。2 年間の必修授業で文法事項は一通り学び、多くのフランス語に触れている。教員は漠然と中級、CECR であれば B1 レベルをイメージするのではないだろうか。しかしながら、モチベーションの高い学生でさえ、文法知識は断片的なものであるし、「読む・聴く・書く・話す」といった言語運用能力は決して高くないのが現実である。

では、教員は 90 分の枠で何ができるか。その方法の 1 つとして、本稿では学生が「2 年間で得た『断片的知識』を統合」させ、「『聴く』力のレベルアップ」に取り組むことを提案した。このような授業運営は、たとえるならば、ばらばらになったジグソーパズルのピースを完成に導かせる作業に似ている。また授業中は、芸能人のフリートークのように、学生の理解度など状況に応じて臨機応変に授業を組み立てていく必要があるだろう。

今回筆者が提案した授業構成は、教員にとっては負担を強いるものかもしれない。しかしながら、授業毎に学生が理解・聴解力を伸ばしていることに確かな手ごたえを感じた。今後はリスニングを中心に教材開発、授業改善に取り組んでいきたい。